

倭健の天皇とたへ奉りしを、そのかみのかたり言のまゝに書記せるものなるべし、

〔釋日本紀六述義〕攝津國風土記曰、所以稱住吉者、昔オキナガヲラシヒメ息長足比賣天皇神功皇后世住吉大神現出、而巡行

天下略下

〔常陸風土記〕茨城國造初祖天津多祁許呂命、仕息長帶比賣天皇之朝、

〔海東諸國記〕神功天皇開化五世孫、息長宿禰女、仲哀納爲后、仲哀沒遂主國事、

〔神皇正統記神功〕第十五代神功皇后は、息長宿禰の女、開化天皇四世の御孫なり、略中皇后攝政

して、辛巳の年仲哀崩明年より天下をしらせ給ふ、

〔播磨風土記〕初田、宇治天皇應神皇太子之世、宇治連等遠祖、兄太加奈志、弟太加奈志二人、略下

〔皇胤紹運錄〕飯豐天皇忍海部女王是也、又號豐青姬、清寧崩後、仁賢顯宗兄弟、相讓不即位、仍其姊豐青姬、自二月令攝天下政、

〔日本書紀十五〕五年清寧正月、白髮天皇清寧崩、是月皇太子億計王仁賢與天皇宗顯讓位、久而不

處、由是天皇姊飯豐青皇女、於忍海角刺宮臨朝、秉政、自稱忍海飯豐青尊、當世詞人歌曰、野麻登陸

彌瀨、我保指母能婆於尸農、瀨能宮能拖、荷紀儼屢都奴婆之能瀨野、十一月、飯豐青尊崩葬葛城

埴日丘陵、

〔古事記下清寧〕故天皇崩後、無可治天下之王也、於是問日繼所知之王也、市邊忍齒別王之妹忍海郎

女亦名飯豐王、坐葛城忍海之高木角刺宮也、

〔扶桑略記二〕飯豐天皇帝王次、市邊押磐皇子女略中甲子歲春二月、生年四十五、即位、顯宗天皇

仁賢天皇兄弟相讓、不即皇位、仍以其姊豐青姬、令秉天下之政矣、略中此天皇不載諸皇之系圖、但和

銅五年上奏日本紀載之、仍註傳之、諸本有無不同也、

〔水鏡上〕飯豐次のみかど本書在清、飯豐天皇と申き、これは女帝におはします、略中甲子のとし二

月に位につき給ふ、略中さしてほどなく其年の内、十一月にうせ給ひにしかば、此みかどをば、系圖